

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブ・ラーニングやディスカッションなどを導入するなど、授業の工夫を図っている。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まる(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	感じている 20.0% やや感じている 48.5% あまり感じていない 25.6% 感じていない 6.0% 感じている+やや感じている=68.5% C評価 昨年度 感じている 20.3% やや感じている 49.0% あまり感じていない 24.7% 感じていない 6.0% 感じている+やや感じている=69.0% C評価	「感じている」+「やや感じている」が昨年度より0.5ポイント下回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面に改善の余地があることを意味している。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしていきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面(a多く+b時々)設定している割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 多く設定 31.9% b 時々設定 61.7% c あまり 6.4% d 全く 0.0% a+b=93.6% 昨年度 a 26.4% b 69.8% c 3.8% d 0.0% a+b=96.2%	a+b が93.6%と昨年度より2.6ポイント下回ったが、a (多く設定)について見れば5.5ポイント上昇している。この取り組みを一層拡充することで生徒の言語活動の活性化を図るとともにさらに生徒自らが主体的能動的な力がついたことを実感できるような授業へと結び付けていきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	1、2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1年: 32.9% D評価 2年: 56.6% D評価 参考(3年:86.8% A評価) 昨年度 1年: 41.6% D評価 2年: 49.6% D評価 参考(3年:97.8% A評価)	前年度同時期に比べ、2年生は7ポイント上回ったものの、1年生が8.7ポイント下回った。現3年生は80%以上であるが、それでも昨年度の97.8%を下回った。ホーム担任、授業担当者、部活動顧問がそれぞれの立場で家庭学習への意識付けを継続的に指導していくとともに、日々の授業に対する予習・復習の徹底や、適切な課題設定が必要である。	CまたはDの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	④ 朝学習の充実により、主体的に思考を深める習慣を身につける。	各学年	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1年: 78.7% B評価 2年: 76.7% B評価 3年: 80.5% A評価	【1年】昨年度1年生の67.7%と比べて、今年度は11ポイント上昇している。遅刻者数も少なく、朝学習開始時刻である8時15分の数分前には自席に着き、落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートさせるという初期指導が継続されている結果であると思われる。また、朝学習での小テストの結果と連動した放課後の学習会や再テストなどの取り組みも、朝学習に向かう生徒の意識に作用していると考えられる。2学期からは、来年度から始まる共通テストを見据えて、学年内で各曜日の内容について、変更や精選を検討することが必要であると考えられる。 【2年】朝学習に積極的に取り組んだ生徒の割合が、昨年同時期より9ポイント増えた。約1割の生徒が朝学習の効果を実感し、まじめに取り組む始めたと言える。朝の小テストだけでなく、再テストや学習会を行う中で次第に重要性に気づいたのではないかと思われる。学習内容の定着へ向けての意識はまだ低く、テストに追われている感はあるが、まじめに頑張る雰囲気を大切にして主体的に学力向上に取り組む生徒を増やしたい。 【3年】この時期に朝学習で学力が身についたと考える生徒が昨年度より増え、A評価となっている。昨年度から引き続き、朝の小テストだけににとどまらず、「再テスト」や「確認テスト」を行うことで、学力の定着を図っている。週1で行う英語のリスニングの効果も出てきているように感じている。後期は受験が近づいてくるので、コースに応じて、より必要な内容を精選して取り組ませていきたい。	Dの場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年 教科	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	1年: 94.3% A評価 2年: 90.1% A評価 3年: 99名 A評価 H30 1年 90.1% 2年 89.5% 3年 83名	1年は保護者対象の文理選択説明会を前年比で1ヶ月早めることや夏季補習中の進路学習を工夫するなど、従来の進路選択の早期の指導をさらに手厚くすることで、5年前から推進している進路意識の涵養と学習への意識付けの取組をさらに深化・発展させており、集計上最高値となる高い国公立志望割合となった。 2年は1年次より継続して生徒の進路意識を高め、クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、高い志望を掲げ学習に取り組ませたことにより、1年時と同割合の90.1%で、昨年度に続きA評価と高い数値を維持した。 3年は金沢大学以上を目標とする生徒の割合が昨年度の3年生の27%を大きく上回る37%となり、過去最高となった。高い志望を叶えた先輩たちの存在や継続した国公立を目標とする指導の成果であるが、1・2年においては、この高い志を家庭学習の定着や学習時間の伸長	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査で評価する。
	② 進路指導課と各学年、教科との進路指導方針の共有により、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	1、2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が、 A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	11月進研模試で評価 参考：7月進研模試 ()内は昨年同時期 1年： 国語49.1 (47.7) 数学50.1 (48.8) 英語47.0 (45.2) 2年： 国語48.2 (49.0) 数学47.1 (50.0) 英語46.5 (47.4)	7月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が48.6、2年が47.2であり、1年は昨年度、一昨年度を上回り、直近5カ年の最高値であった。2年は昨年度を下回るものの、一昨年度と同数値であり、今後の取組による伸長に期待したい。評価は11月の進研模試で判断する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で評価する。
	③		1、2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が、 A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	11月進研模試で評価 参考： 7月進研模試による全国偏差値54以上の生徒 ()内は昨年度同時期 1年： 36名 (23) 2年： 35名 (60)	7月進研の結果、全国偏差値54以上の生徒は1年では36名、2年では35名であった。1年は平均偏差値と同様に前年度を大きく上回り、近年の7月模試動向と比較しても順調な滑り出しとなっている。2年においては、平均偏差値と同様にきびしい数値となっているが、最上位層となる偏差値60の数値は一昨年度をやや上回っているため、上位層を育てつつ、中下位層への支援を強化し、全体の底上げをはかっていきたい。評価は11月の進研模試で判断する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で評価する。
	④		金沢大学以上の国公立大学合格者数が、 A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満	年度末に報告		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
		国公立大学合格者数が、 A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	年度末に報告		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。	
		難関私立大学合格者数が、 A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	年度末に報告		CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。	

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が4回以上の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	年度末に報告 7月現在3回以上来校されている方が30%ほどある。5月のPTA総会・学年別説明会に315名(昨年403名)が来校。朝の挨拶運動は5月20日～7月19日まで29回実施し、予定の約70%が参加した。	挨拶運動参加率は70%と、昨年と横ばいであった。仕事の都合で日を変えてきてくださった方もあり、忙しい中で協力してくださるようすが伺える。また、担任もほぼ全員が出て、保護者と言葉を交わすことができた。7月の参加率は昨年同様50%であった。年度当初の連絡から時間が経っているため、改めて周知方法を見直す必要がある。5月総会来校者は昨年より1クラス減にもかかわらず、ほぼ同じであった。学年別懇談会はどの学年も減少し、全体で20%ほど少なかったため、後期の	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	ホームページ上の更新回数が、 A 120回以上 B 90回以上 C 60回以上 D 45回未満	年度末に報告 参考：8月末で69回	昨年までの倍以上の目標を掲げて、今春からさまざまな部署、部活で情報をあげてもらうようにして取り組んでいる。回数だけが目標というわけではないが、楽しく見ていただけるよう、こまめにニュースを届けるようにしている。それが功を奏したのか、昨年度と回答の形式が違っているが、ホームページをみたことがあると回答した割合が増えている。部活動の様子なども心待ちにしてみてくださいるので、引き続きさまざまなニュースを載せるように取り組みたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上を目指す。	生徒課	1、2年生の部・同好会活動(外部団体での活動含む)の加入率が、 A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	4月の1、2年生の部・同好会活動(外部団体での活動含む)の加入率加入率 1年生 97.9% 2年生 89.1% 合計 93.5% A評価	1、2年ともに9月までに退部者が若干名いるが、意欲の低下と勉強との両立が主な理由になっている。意欲の低下の原因としては、活動内容・部員、顧問との関係などが考えられる。文武両立し逞しい人間を育成するためにも、顧問だけでなく担任、保護者のサポートを受け、意欲的に取り組み充実感と達成感を味わえるような活動にする。	CまたはDの場合は、改善策を検討	12月に評価する。
	④ 明倫祭の外部公開の継続と、校内開催と校外開催の内容充実と、近隣商業施設、小中学校でのポスター掲示など広報活動を活発にすることで、来場者数の増加を目指す。	生徒課	1日目の来場者数が、 A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	1日目の来場者数 995名 A評価 令和元年度明倫祭の来場者数 1日目 995名 2日目 299名 合計 1294名 昨年度 1日目(9/1 土) 814名:B評価 2日目(9/2 日) 476名	令和元年度明倫祭の入場者数は、1日目が日曜日だったためか、昨年の土曜日開催より184名の増、一昨年より228名の増加となった。増加は、高校生(友人)や家族の割合が大きい。その反面、2日目は例年の日曜日から月曜日開催になったため、299名と例年の450名前後から大きな減となった。今年度の新たな取り組みとしては、全生徒に友人への招待券の一人2枚配布を徹底した。このことも来場者数の増加につながったと考えられる。	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公共図書館の司書を招いてのビブリオバトルなど地域と連携した活動を行うことで発信・表現力を育てる。	図書課	地域と連携した図書委員会活動の回数が、 A 年間10回以上 B 年間8～9回 C 年間6～7回 D 年間6回未満	年度末に報告	8月末現在で5回実施。今後最低2回実施予定あり。	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課各学年	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒の割合 良くあてはまる 26% ややあてはまる 54.8% 計 80.8% A評価 (昨年度:できたの割合 71%)	7月学校評価アンケート結果から、生徒の意識は大きな声での挨拶に心がけているようだが、保護者・職員アンケートではあまりできていないとの評価になっている。登下校時の挨拶だけでなく、授業の始めと終わりの挨拶を大きな声で行うように全職員で指導する。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 登校指導や生活指導などにより、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	生徒課各学年	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合 良くあてはまる 76% ややあてはまる 21.9% 計 97.9% A評価 (昨年度:98.3%)	7月学校評価アンケート結果からは、生徒の大半が制服を正しく整えている様子が見えるが、生徒課の「生活と意識」調査によると、校則で守られていない項目で、頭髪に次いで制服が守られていないという意識がある。今後も頭髪と制服について丁寧に指導をする。	B以下の場合には、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課各学年	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒の割合 良くあてはまる 71% ややあてはまる 24% 計 95% A評価 (昨年度:96.2%)	7月学校評価アンケート結果から、交通ルールを守っている意識の生徒が大半である。保護者アンケートではイヤホン・スマホのながら運転が問題と指摘もある。県警の交通違反状況(毎月の報告)でも毎月2~3名指導を受けている。日常的に注意喚起をする。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課各学年	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	ボランティア活動に、自発的に複数回参加 6.5% 自発的に参加 13.3% 計 19.8% D評価 (昨年度:13%)	8月末までに、野々市市まちぐるみ一斉清掃を兼ね全校生徒・職員でした舎外清掃以外に、各部を中心にボランティア活動に参加した生徒が188名となっている。今後も部だけでなく個人的にもボランティアの紹介をする。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	a よくあてはまる 46.6% b ややあてはまる 39% 計 85.6% B評価 (昨年度:83.3%)	昨年度7月の調査では、全体が83.3%であったので、「楽しい」と感じる生徒は増えている。原因は1年生と3年生の「aよくあてはまる」が昨年度に比べ増えているからである。1年生の現状をこのまま維持できるように、配慮していきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室生徒課各学年	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a よくあてはまる 8.3% b ややあてはまる 81.3% 計 89.6% C評価 (昨年度:94.6%)	生徒が抱える問題について、素早く対応することはできているが、解決に至ることはなかなか難しい。校内の連携と関係機関の協力を得て、解決に向かうことができるように、努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	年度末に報告 参考: 歯科受診率 (9月13日現在) 1年: 20.7% 2年: 25.5% 3年: 54.5%	例年受診率が低い3年生を中心に呼び出して指導したため、3年生の受診率は向上してきているが、その分1、2年生の受診率が下がってきてしまった。1、2年生も呼び出し、完治に向けて受診するように指導していきたい。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介冊子の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が、 A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	年度末に報告 参考: 4月~8月の貸出冊数 999冊	平均すると貸し出し数は少ない。イベント的なことを行うと冊数が増える傾向があり、夏期休業の特別貸し出し期間中の貸し出し数は243冊であった。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務の軽減や負担の分散、時間管理の促進などにより、職員の多忙化改善を進める	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が、 A 3.0人未満 B 4.0人未満 C 5.0人未満 D 5.0人以上	(単位：人) 4月 5月 6月 7月 8月 平均 80時間以上 5 6 7 7 3 5.6 うち100時間以上 3 2 3 2 3 (昨年80時間以上 11 12 8 9 4 8.8) D評価	対前年比では改善しているものの、まだまだ不十分な状況である。業務の削減や効率化、負担の平準化をめざし、行事の精選や業務内容や方法の見直しなどを進めることが必要。また、完璧を求めて時間を気にせずに取り組むような職員の勤務時間に対する意識も改めていくことが必要と思われる。	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。